

## 【アメリカ情報】 人にペットに環境にやさしいライフスタイルセンター/ワシントンDC郊外



オープンエアが心地よく、地域住民とのコミュニケーションを大切にしているこの施設は、共有スペースの噴水パークでは、夏には水着を着た子供たちが遊びまわったり、映画の屋外上映を催したり、そして冬にはスケート場になったりと、コミュニティに必要な施設や住宅など、消費者のプライベートな生活の一部として地域と密着し、テナントミックスのユニークさが注目される広域型のライフスタイルセンターです。

年収700万円位のファミリーをターゲットとしているそうですが、周辺住居は郊外に位置するにも関わらず condominium で4000万円！と日本の首都圏並の価格だそうです・・・。

敷地同りは幅30mの自然緩衝地帯でブロックされ、ここでも地域住民への配慮が伺えます。日本でも騒音の問題、自然破壊などとSC建設には付きまとう問題ですが、自然と一体化となり、開発を進めているという建築設計の考え方が伝わってきますね。

こういった設計意図は所々に見る事が出来、共有スペースの活用、強調し過ぎないデザインのシンボルタワーの案内表示、ポイントアーチのデザイン、特にさりげなく置かれたペットの水飲み場が非常に印象的で、人にペットに環境にやさしいSCでした。

2つの百貨店と、スポーツ大型店を3核としながら、高級専門店と人気の中華料理店などの飲食店をテナントとして一日中ゆっくりとファミリーで過ごすことができるのが特徴です。



reporter SUMI

## 全米No. 1を誇るランジェリーShop

インターネットによってブランド認知度を飛躍的に拡大させ、グローバル化に成功した全米No. 1を誇るランジェリーショップです。(女優、歌手、モデル御用達)

日本とアメリカの下着を比べると、いろいろな違いを見つけることができます。製品に関していえば、日本製は機能的でデザインはコンサバティブ、アメリカ製はというとサイズやデザインが豊富でビビットカラーやアニマルプリント、総レースなど派手なデザインが目立ちます。

ディスプレイに関しても等身大マネキンでスーパーリアルに着飾られています。

そのマネキン達のポーズは体の重心を片方にのせ、もう片方を自由に遊ばせることで身体全体の流れをS字形にしてバランスを取る、いわゆる「コントラポスト」の構図を用いたり、座ったり寝そべったりと、より等身大の人間としての自然の動きに富んだ表現がされています。

その心理には「理想的な女性が最も魅力的に見えるスタイル」を視覚提供しているのと言えます。

下着以外にもフレグランスをはじめとする化粧雑貨、また通販では洋服なども扱っているそうです。

人種、年齢、性別を問わず、全世界の人々が共有しているユニークでグローバルなオンラインカタログを一度覗いてみてはいかがでしょうか。



reporter OGAWA



## 【上海情報】 福を呼ぶ扉



reporter KATAGIRI

日本でも、中華料理店の入り口でたまに見かける「福の逆さま文字」。中国では、福は天から降ってくるものということで、こうして逆さま文字にして貼り、福を呼び込もうとする習慣があるようです。

以前、流行った映画「キョンシー」でも、いろんな御札を貼ったり、投げたり気を込めた紙は、変幻自在に活躍していた事を思い出します。

ある意味、サインとは情報伝達のツールですが、願いを込めた情熱はきっと、それを見るお客様にも伝わっていくように思います。

## 【四季の風景】 ホテイアオイの群生

メダカを飼っている私は、卵を産み付ける為に欠かせないのが、ホテイアオイの浮き草。布袋様のお腹のような浮き袋を持っているので、そういう名前が付いたそうです。先日、パールマネキン本社近くで、水路にぎっしりと埋め尽くし一面に花を咲かせた群生に出会いました。小さなものが圧倒的な数と量で迫ってくるビジュアルはすごいものがあり、感動します。

しかし実は、水の流れを妨げたり、水中に届く日光を遮断したり、枯れた時には環境汚染となったりで、なんと害草としてみなされているのです。

もともと熱帯産の外来種であり、日本では生息していないものなのですが、軽い気持ちで誰かが捨てたことにより、温暖化？と旺盛な繁殖力によってどんどん増えてきているらしいのです。

こんなにも美しい景色なのに、環境破壊という問題が表裏一体となって語りかけてきて、非常に考えさせられます。美しさも単なるビジュアルだけでは駄目ということですね。



reporter IWA I